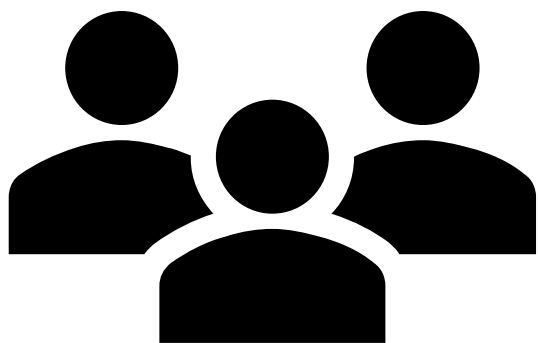


# 起こり得るハラスメント

---

～ 無意識のうちに加害者にならないために ～

【組織編】



その「普通」「当たり前」  
世間で通用しますか？

この資料は、主に連盟役員向けに作成していますが、チームや審判員組織など、関係するコミュニティにおいても、もう一度、自身の行動を振り返り、考えてみてください。

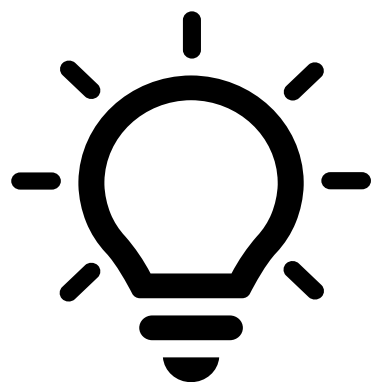
# ハラスメントは全ての暴力を指します

---

殴る、蹴るなどの身体的な攻撃だけではなく、ののしり、罵声などの言葉による攻撃、話を聞かない、無視などの態度による攻撃、正当な理由が無い「排除」や「拘束」なども身体的な攻撃と同じように人を傷つける行為です。

**考え方の変換が必要です。**

身体的な攻撃以外のハラスメントについては、比較的近年、世間で認知され始めました。報道等で頻繁に耳にして「そういう時代なんだ」と理解しているつもりでも、自身の行動と結びつかない事も多いと思います。しかし、時代に関係なく本来、人を傷つける全ての行為は否定されなければなりません。

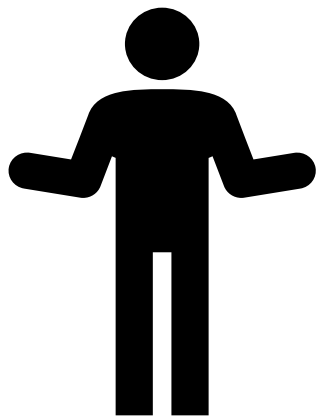


# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

---

**組織の運営側は、特に次のような行為をしないよう注意を払う  
必要があります。**



①運営側のやり方や規程、長年続く決まり事に対してチームなどから不満や疑義があった場合、よく話を聞かず一方的に「そういう決まりだ」と頭ごなしに片付ける。

→地域的な個々の事情、支部特有の決まり事・・・いわゆる習慣がある場合も多いと思いますが、今はSNS等によりチームは他支部の情報を容易に入手できる時代です。他支部には無い規程や決まりが必要な理由を明確に説明し、納得してもらう必要があります。

※それは「競技者にとって必要な決まり」でしょうか？（考えてみてください）

# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

---

## 二重のハラスメントになる事を認識する必要があります

②チームの疑問に対して、所属団体の回答が頭ごなしの回答だった場合、全軟連等のお問合せコーナーを通じて質問、所属団体の対応が通報されることがあります。

全軟連は通報者の情報などを「内部通報規程」によって守りますが、所属団体の通報者を特定し、自分達を飛び越えて通報したことを非難してはいけません。



→まさしく、競技団体が犯しやすい二重のパワハラです。

ひとつは、話を聞かず無視し、説明責任を果たさなかった事、もうひとつは通報したことを非難する事です。

# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

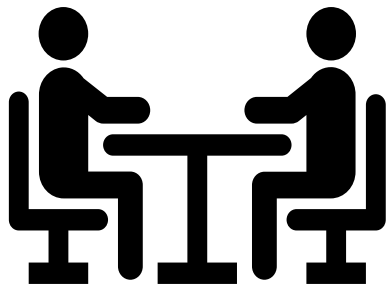
---

**通報窓口を利用したことを理由とした通報者の不利益な取り扱いは禁止しています。**

③投げかけた疑問に対して、真摯に対応してもらえない、問題は解決しないと考え、通報という手段をとるのです。

日頃からコミュニケーションをとり、風通しの良い組織づくりを行っていただければわざわざ通報という手段は用いないのではないのでしょうか。

スポーツ団体のガバナンスコードに於いても「通報窓口を利用したことを理由として、相談者に対する不利益な取り扱いをおこなうことを禁止すること」と明記されています。



# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【スポーツでは、指導者→競技者のハラスメントに注目が行きがちですが・・・】

---

## 調査依頼を受けた支部がやってはいけないことがあります

④チームの構成員が、チーム内の金銭トラブルや指導者の暴力・暴言などについて、報復を恐れて支部や全軟連の通報窓口へ匿名で通報する場合があります。通報が匿名であっても事実関係の調査は行うべきです。匿名を理由に拒むことは出来ません。何故匿名で通報しなければならなかったのかを考えてください。



**！！ NG行為 ！！**

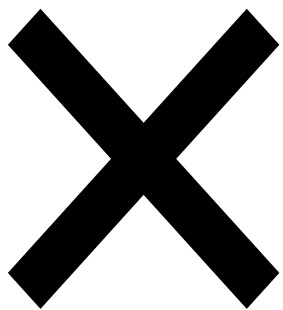
- 匿名の通報には調査、回答は出来ないと協力を拒む
- 犯人捜しをし、通報者を特定して立場を悪くする
- 通報を理由に処分する→（ハラスメントに該当します）

# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【出来れば内々に済ませたい気持ちは分かりますが・・・】

---

## 隠蔽は絶対NGです！！



- ⑤長年チームの指導をしている監督や代表者の方は、連盟と近い関係・・・ほぼ関係者となっている事がよくあります。様々な事案に協力して頂いたり、良い面が沢山あります。反面「身内」意識が働き、そのチームに何か不祥事があった場合、どうしても表沙汰にしたくない、なかなか厳しい処分が出来ないという状況になり得ます。お互い気づかないうちに、いわゆる【なあなあ関係】になってしまっているのです。チーム関係者の話を聞く、意見を取り入れるといったコミュニケーションは必要です。ただし、何か事があった時にこそよく話し合える関係、本来は事が起こる前にきちんと注意ができる関係を築いていなければならないのです。

# 競技団体（連盟・協会）で起きやすいハラスメント

【出来れば内々に済ませたい気持ちは分かりますが・・・】

---

## 無かったことにはなりません



- ⑥たとえ強い悪気が無かった行為でも、「強い圧力」を感じた、そのことに傷ついた人がいたら「悪気は無かったんだから」で終わらせることはできないのです。  
事実は、ゴミのように丸めて捨ててしまうことは出来ないのです。  
ハラスメント行為の最大の問題は、やっている方（加害者）とやられている方（被害者）の認識が大きく違う、ずれているということです。  
大半の事案、加害者は悪気があった訳では無いから大したことではないと思っています。  
人はそれぞれ、感じ方や受け取り方が違います。

**無かったことにしようとする態度や行動が一層被害者を傷つけることになるのです。**



# 楽しくスポーツを楽しむために

---

アマチュアの地域スポーツ団体は、ボランティア精神に支えられた仲間で構成された団体であることが多いのが現状です。



団体関係者も、審判員も、チーム関係者もみなそれぞれ、野球に関わっていたい、野球を楽しみたい、という「野球が好き」という共通の思いがあります。立場が違うだけ……。【仲間】なのです。

それぞれが抱く疑問、抱える悩み・問題を真摯に受け止め、誠意を持って相手の話を聞き、誠実に説明・調査する必要があるのです。

その問題についてきちんと説明できない時には、例え長く続いている習慣であっても見直しをする、連盟と近いチームの出来事であっても、踏み込んで皆が納得するよう真摯に問題を解決する姿勢が必要なのだと思います。

**皆が楽しく軟式野球を楽しむために。**